おふたいむ

初心忘るべからず

京丹波町住民課長

長澤　誠　氏

「実は高校3年の時、阪急ブレーブス（現オリックス・バファローズ）の入団テストを受けたことがあるんです」と打ち明けられた。身長182㌢、堂々とした体格だ。今も年に一回、京都府市町村職員厚生会の野球大会に投手としてマウンドに立つスポーツマンだ。

地元・旧丹波町の職員を経て、合併後、議会事務局長などを務め3年前に住民課長になった。保険年金、戸籍、環境、人権と業務内容は幅広く、住民と接する窓口の最前線の責任者である。「なんの経験もない部署でしたので不安だらけでした。特に国保関係は制度や仕組みが複雑でしょう。課員に専門用語などを教えてもらいながら今も勉強中です」と話す。「平成30年度から新国保制度が始まりますが、国保担当の係長らに『頼りにしているから動（異動）かんといてな』と頼んでいるんです」。持ち前の明るさで大きく笑った。

消防団と二足のわらじ

丹波、瑞穂、和知の3支団で構成する京丹波町消防団の副団長を3年前から務めている。「役場で仕事中でも、よほどのことがない限り火災や災害、警報が出た時には出動します。基本的に盆も正月も夜も関係ないわけです。『準公務員』ですので、町職員と二足のわらじをはいている感じです」。地元に戻ればコメ作りもしており、農業関係の役職も頼まれプライベートな時間は少ないが、それだけに不健康ではいられないという。

ゴルフで「つながり」できた

健康法は上司に誘われて25歳ごろから始めたゴルフ。「役場内にゴルフクラブがあり、付き合いも兼ねてやりだしたんですが、ゴルフを通していろんな職員とのつながりができました。それにストレス解消にもなりますし」。とはいえ役職などが増えるにつれ、コースを回る機会も少なくなり「腕前はあまり上達しません」と嘆く。「しかも最近腹が出てきたんですよ。冬場は雪も降るし、どうしても運動不足になります。ゴルフだけではあきません。ちゃんと歩き、運動をせなあきませんな」と反省しきり。

この3年間でいろんなことを学び、教えてもらったという。「住民さんの声によく耳を傾けることが公務員としての原点であることを再認識しました。合併などを経験して職員同士はもちろん人と人とのつながりが、いかに大切であるかも痛感しました」と話す。「初心忘るべからず。すべてが初体験でしたが、何でも吸収しよう、一から勉強やという、役所に入った頃の気持ちになりました。これからもそんな気持ちを持ち続けたいですね」

取材の終わり際に、大学時代、軽音楽部の部長でベースギターをやっていたと告白された。「今はやっていませんが、気の合う仲間と近い将来、おやじバンドでもやってみたいです…」。ぜひ実現してください。楽しみにしてますよ。